

例規の改正について（2022→2023）

1 規約

- (1) 「主に本楽団の運営に携わる者」を団員とすることができるよう、第4条に第2項を加える。

2 本楽団は、前項に定める者のほか、主に本楽団の運営に携わる者を団員とすることができる。

- (2) 複雑化・高度化する楽団運営に的確に対応するため、幅広く人材を登用することができるよう、第9条第2項を次のとおり改める。

2 役員は、本楽団の運営に関する実施機関とし、団員及び団員以外の有識者の中から選任されるものとする。

2 細則

- (1) 第2条第4項中、言わずもがなの表現を改め、規定の整備を行う。

改正案	現行
4 パートマネージャーは、 <u>入団希望者が本楽団にふさわしいと判断したときは、団長にその正式な入団を提案するものとする。</u>	4 パートマネージャーは、 <u>入団希望者の人格及び演奏技術が本楽団にふさわしいと判断したときは、団長にその正式な入団を提案するものとする。</u>

- (2) 第2条第6項について、演奏技術の審査を行う者を柔軟に選定できるよう、規定の整備を行う。なお、当該審査については、少なくとも2009（平成21）年以降では実施の例はない。

改正案	現行
6 規約第6条第2号の審査は、 <u>団長が指名した者</u> で行うものとする。 ※解釈・運用で審査を行う者を例示（後述）	6 規約第6条第2号の審査は、 <u>団長、常任指揮者、インスペクター、コンサートマスター及び入団希望者の希望するパートのパートマネージャー</u> で行うものとする。

- (3) 「主に本楽団の運営に携わる者」を団員とする場合の入団手続を定めるため、第2条の次に第2条の2を加える。

第2条の2 前条の規定は、主に本楽団の運営に携わる者を団員とする場合について準用する。この場合において、前条第2項及び第4項は適用せず、同条第3項中「パートマネージャー」とあるのは「団長」と、「前項の伝達」とあるのは「入団の申込み」と、「練習」とあるのは「運営業務」と読み替え、同条第5項中「前項の提案があったとき」とあるのは「入団希望者が本楽団にふさわしいと判断したとき」と読み替え、同条第7項中「入団が承認された後にパートマネージャーを経由して行うものとする。」とあるのは「入団が承認された後に行うものとする。」と読み替えるものとする。

- (4) 「主に本楽団の運営に携わる者」の退団手続を定めるため、第4条に第2項を加える。

2 前項の規定は、主に本楽団の運営に携わる者について準用する。この場合において、前項中「パートマネージャーを経由して団長に」とあるのは「団長に」と読み替えるものとする。

- (6) 必要に応じて楽団外からトレーナーを招聘できるよう、細則第11条を次のとおり改める。

第11条 団長は、演奏会の指揮及び練習の指導を常任指揮者以外の者に依頼することができる。

- (7) 細則第13条の日本アマチュアオーケストラ連盟への協力や補助について、次のとおり改める。なお、補助の考え方等については、解釈・運用で定めることとする。

改正案		現行	
<p>第13条 本楽団は社団法人日本アマチュアオーケストラ連盟（以下「JAO」という。）に対し、次に掲げる協力を行う。</p> <p>(1) JAO総会又は運営協議会への出席</p> <p>(2) JAOフェスティバル(年1回各地持ち回りの演奏会)への参加</p> <p>2 本楽団は、前項各号に掲げる協力を推進するため、団員に対し次の補助を行うものとする。</p>		<p>第13条 本楽団は社団法人日本アマチュアオーケストラ連盟（以下「JAO」という。）に対し、次に掲げる協力を行う。</p> <p>(1) JAO総会への出席</p> <p>(2) JAOフェスティバル(年1回各地持ち回りの演奏会)への参加</p> <p>2 本楽団は、前項各号に掲げる協力を推進するため、団員に対し次の補助を行うものとする。</p>	
区分	金額	区分	金額
JAO総会又は運営協議会出席者	参加費、交通費及び宿泊費	JAO総会出席者	交通費の半額

3 解釈・運用の目安

- (1) 2ページ。規約第4条第2項を追加したことにより、その解釈・運用に次の文面を加える。

また、本楽団は、主に楽団の運営に携わる者についても団員とすることができます。

主に楽団の運営に携わる者とは、本楽団での活動の主たる目的を楽団運営への参画とする者のことですが、その従たる目的である演奏活動への参加を禁止するものではありません。

主に楽団の運営に携わる者の基本的な権利及び義務については、他の団員と同様とします。ただし、その取扱いに一定の差異を設けることが合理的であるものについては、違いが生じることがあり得ることから、個別の事案ごとに判断します。

主に楽団の運営に携わる者は、その趣旨に鑑み、基本的に時間と場所にとらわれず楽団運営に参画するものとしますが、楽団からの連絡に対しては、常識の範囲内で速やかに応答することが求められるものとします。

主に楽団の運営に携わる者は、年間公演数の1/2（小数点第1位以下は切り捨て）以内の公演に係る演奏活動に参加できるものとし、そのときの参加形態は他の団員と同様とします。

主に楽団の運営に携わる者の属するパートの名称を「マネジメント」とし、このパートにおけるパートマネージャーの役割は団長が担うこととします。ただし、主に楽団の運営に携わる者が演奏活動に参加するときは、一時的に主に楽団の運営に携わる者の演奏楽器パートにも属するものとします。

- (2) 3ページ。細則第2条の2を追加したことにより、入団に関する解釈・運用を次のとおり改める。

入団の申込みについては、電子メール、手紙、電話など任意の方法で行うことができるものとします。

入団の申込みがあったときは、細則第2条第2項から第6項に定める手続をとることとします（主に本楽団の運営に携わる者を団員とするときは、これらを準用します。）。

入団希望者は、入団が承認された後に、別に定める入団届によりパートマネージャーを通じて団長に対して入団を届け出ることとします（主に本楽団の運営に携わる者については、直接団長に入団届を提出します。）。また、入団届の記載事項に変更が生じた場合は、別に定める変

更届によりパートマネージャーを通じて団長に届け出ることとします（主に本楽団の運営に携わる者については、直接団長に入団届を提出します。）。

演奏技術の審査内容は、関係役員で協議しその都度決定することとします。なお、審査を行う者については、団長、常任指揮者、インスペクター、コンサートマスター及び入団希望者の希望するパートのパートマネージャー等が考えられます。

パートの定員については、本楽団の演奏者を安定的に確保する観点から柔軟かつ弾力的に設定することとし、入団希望者を可能な限り受け入れるものとします。

- (3) 3 ページ。休団に関する解釈・運用のうち、休団届等に関する文面を次のとおり改める。

休団の申出については、別に定める休団届を提出することにより行います。また、休団届の記載事項に変更が生じた場合は、別に定める変更届によりパートマネージャーを通じて団長に届け出ることとします。

- (4) 4 ページ。退団に関する解釈・運用のうち、退団届等に関する文面を次のとおり改める。

退団の申出については、別に定める退団届をパートマネージャーを通じて団長に提出することにより行います（主に本楽団の運営に携わる者については、直接団長に退団届を提出します。）。なお、事情により退団届の提出が困難な場合は、電子メール等により当該団員の退団の意思が確認できれば、退団届の提出は不要とします。

- (5) 8 ページ。トレーナーの招聘に係る解釈・運用を次のとおり加える。

本楽団の演奏会の指揮や練習の指導を常任指揮者以外の指揮者や指導者に依頼できるよう根拠規定を置くものです。

なお、ソリストについては、選曲により当然招聘しなければならないことが自明であるため、選曲の一部と考えることとし、招聘に関する規定は特に設けないこととします。

演奏会等における指揮者の候補は選曲委員会で選定され、役員会で決定されます。

- (6) 9 ページ。J A O 運営協議会出席者への補助について、次のとおり解釈・運用を定める。

J A O 総会又は運営協議会への出席の有無及び出席者については、役員会で協議の上、決定することとします。

J A O 総会又は運営協議会には役員等 1 名を派遣することを原則としますが、やむを得ない事情により複数の役員等を派遣するときは、役員会で協議の上、複数の役員等への補助を行います。

参加費に懇親会費が含まれるときは、懇親会費相当額を除いた額を補助します。

交通費（宿泊費を含む。）は 50,000 円を上限として実費を補助することを原則としますが、やむを得ない事情があるときは、役員会で協議の上、補助額を別に定めることとします。

楽団の財政状況に鑑み、出席者や補助額に係る例外の運用は慎重に行うこととします。

J A O フェスティバルへの参加に関する対応については、団長が参加を希望する団員の中から代表者を選び、参加者の取りまとめ及び参加申込み等の事務を依頼することがあります。